マヤの 陽だまりの せいく

マヤ・クラルジとノエル・ランバート・バラス

(ほんとうにあった話をもとに書かれました)

→ のお話はスロベニアでの出来事です。マヤは家の前の階段にすわ **し** り, あごを両手に乗せていました。太陽が削るくかがやいていて, たかい木々の間から、あたたかい光がふり注いでいました。空気は新鮮な松 葉のようなにおいがしました。

お母さんが出てきて、マヤのとなりにすわりました。「何を考えている

「初等協会で好きなせいくを分かち合うことになっているの」と、 マヤは言いました。「でも, 好きなせいくがないし, どのせいくを選 べばいいのか分からないの。

お母さんがうなずきました。「好きなせいくを選ぶのはむずかし

いわよね。」お母さんは木を見てから、 立ち上がりました。「わたしに考えがあ るわ。」

お母さんは家の中にもどりました。 戻ってくると、 聖典を持っていました。 「まず、お話から始めましょうか。マヤ の好きな聖文の物語は何?

マヤは考えてみました。「イエス様が ニーファイ人をおとずれられた話が好 き。

お母さんはモルモン書のページをパ ラパラとめくりました。「その話は第 三二一ファイから始まるわね。| お母さん はそのページを指さしました。「順番に 読んで、好きなせいくを選びましょう。」

マヤはうなずいて、お母さんがせいくを読むのを聞いて いました。お母さんは、イエス・キリストが弟子たちをめ されたことについて読みました。空和をつくり出す人とい のりについても読みました。

次はマヤの番でした。ある一節を読み終えると、彼女は 一息つきました。ごがいっぱいになるほど, 太陽がかがや いているように感じました。

マヤはお母さんを見上げました。「このせいく、好きだ

「わたしもよ。そのせいくのどんなところが好きなの?」 お母さんが言いました。

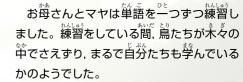
マヤはかたをすくめると、顔に笑みが広がりました。「こ れは、イエス様のことでしょう。だから、それだけで幸せな 気持ちになるの。」

お母さんもにっこりしました。「それは、好きなせいくを 見つけたことが分かる良い方法だね。そのせいくを初等協 **会で分かち合いたい?」**

マヤはワクワクしてうなずきました。「覚えるのを手 伝ってくれる?!

「もちろん!」お母さんが言いました。

*3ニーファイ15:9



その週の間ずっと、マヤは新しく好きに なったせいくを練習し続けました。日曜日 の朝. マヤは少しきんちょうしていました。 教会へ向かう長いドライブの中で、せいくを 言う練習をしました。

マヤの初等協会には、ほんの数人の子供 たちしかいません。でも教室に入ったとき. マヤはきんちょうしていました。

自分が分かち合う番になると、マヤは立 ち上がって深呼吸をしました。「見よ. わた

しは律法であり、光である。」マヤは言いました。「わたし にたより、最後までたえしのびなさい。 そうすれば、 あな たがたは生きるであろう。最後までたえしのぶ者に、わた しは永遠の命をあたえるからである。|*

話し終えると、マヤはすわってにっこりしました。やりと げました! きんちょうはなくなり, 陽だまりのようなあた たかさを感じる気持ちがもどってきました。好きなせいく を読めば、必要なときにいつでもそのような気持ちになれ ると知っていました。●



マヤが初等協会のために 学んだせいくは、 今でも彼女に陽だまりのような あたたかさと安らぎを 感じさせてくれます。 あなたの好きなせいくは何ですか?